

【管理ポイント】

- 中干し後は、間断灌水や飽水管理により、根の健全な生育を促し、丈夫な稲づくりを目指しましょう！
- 登熟を高めるため、ケイ酸質資材を積極的に施用しましょう！
- 今年も暑い夏が予想されます。穂肥は生育診断により、適期に施用しましょう。
全量基肥栽培（一発元肥）でも、葉色が低下した場合は追肥しましょう。
- 極早生や早生品種は、1回目の穂肥時期を迎えます。遅れずに穂肥を施用しましょう。
- 近年、カメムシ類による斑点米の発生が増加傾向にあります。
畦畔・農道の草刈りを徹底し、生息数を減らしましょう！

1 6月19日現在の水稻生育と気象予報

(1) 水稻の生育経過

田植え後は晴れた日が続き、5月下旬には低温の日が多くなりました。5月末の生育は遅れ気味でしたが、6月に入ると気温が高まり、生育は一気に回復しました。今後も高温が続くと見込まれ、茎数は急増しています。

(2) 6月19日現在、コシヒカリの生育状況

目標値比較 草丈：長い 茎数：やや多い 葉数の進み：早い 葉色：濃い
 平年値比較 草丈：並 茎数：並 葉数の進み：並 葉色：並

(3) 北陸地方の1ヶ月予報（6月19日発表）

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。平均気温は、高い確率80%、降水量はほぼ平年並、日照時間は多い見込み。
 高温に伴い、稲の生育は早まることが予想されます。

表1 阿賀野市定点調査ほ場の水稻生育状況（6月19日現在）

品種名	地域名		田植日	草丈(cm)			茎数(本/m)			葉数(L)			葉色(SPAD)		
				本年値	前年値	比(%)	本年値	前年値	比(%)	本年値	前年値	差	本年値	前年値	差
コシヒカリ	水原	山口	5/21	33	31	106	226	251	90	7.7	8.4	-0.7	37.9	37.1	0.8
	京ヶ瀬	京ヶ島	5/6	44	42	105	323	470	69	9.2	9.1	0.1	37.1	40.2	-3.1
	安田	嶋瀬	5/3	40	47	85	429	533	80	8.8	9.5	-0.7	43.6	41.7	1.9
	笹神	七浦	4/30	51	49	104	441	370	119	8.9	9.2	-0.3	42.5	41.8	0.7
	笹神	沖	5/3	41	45	91	355	479	74	9.1	8.9	0.2	41.9	38.6	3.3
	平均		5/6	42	43	98	355	383	93	8.7	8.8	-0.1	40.6	40.3	0.3
こしいぶき	水原	中湯	5/6	43	44	98	482	696	69	9.2	9.7	-0.5	45.9	43.5	2.4
	京ヶ瀬	曾郷	5/3	44	45	98	514	634	81	9.2	9.2	0.0	43.0	42.2	0.8
	安田	籠田	5/7	40	41	98	395	612	65	9.3	9.2	0.1	41.1	41.8	-0.7
	平均		5/5	42	43	98	464	411	113	9.2	9.4	-0.2	43.3	43.5	-0.2

2 中干し後～穂肥までの管理（溝の確認・飽水管理・ケイ酸質資材の積極的な施用）

(1) 切った溝の手直し、連結を確認しましょう

- ・迅速な水の供給と排水、湯水時の効率的な用水利用を図るため、切った溝の手直しやタテ溝とヨコ溝の連結、水口と水尻とのつなぎを確認しましょう。
- ・中干し後は、間断灌水や飽水管理（浅水で湛水→足あとに水が残っているくらいまで減水→再び浅水湛水）を継続しましょう。

(2) ケイ酸質資材の積極追肥で登熟向上を図りましょう

- ・稲は、出穂40日前頃から出穂期にかけて、ケイ酸を最も多く吸収します。
出穂40～35日前のケイ酸追肥は丈夫な稲づくりとともに登熟向上に効果的です、積極的に施用しましょう。

表2 主なケイ酸質資材の施用例

資材名	施用時期	施用量(kg/10a)
けい酸加里734	出穂35～40日前	20～40
マルチサポート2号	出穂40日前	20～40
ミネラル三味	出穂20～40日前	15～30

★ケイ酸の効果

- ・受光態勢が良くなり登熟を高めます。
- ・根の機能を高め、根腐れ防止や吸水力等を高めます。
- ・高温時、葉面温度の上昇を抑え光合成能力の低下を防止します。
- ・茎葉が丈夫になり病害虫に対する抵抗力が強まります。

表3 品種別出穂期予想と穂肥時期のめやす

品種名	幼穂形成期	出穂期	分施の場合の穂肥窒素量合計(kg/10a)	穂肥時期	
				1回目	2回目
ゆきん子舞	6/29	7/21	5～6	6/26～6/28 (-25～-23)	7/7 (-14)
つきあかり	6/29	7/21	5～6	6/26～6/28 (-25～-23)	7/7 (-14)
こしいぶき	6/30	7/23	2～3	6/30 (-23)	7/9 (-14)
コシヒカリ	7/10	8/2	1～3	7/15～7/18 (-18～-15)	7/23 (-10)
新之助	7/16	8/8	1～3	7/18～7/21 (-21～-18)	7/27～7/29 (-12～-10)
五百万石	6/27	7/19	1～2	6/29 (-20)	7/7 (-12)
わたぼうし	6/28	7/20	2～3	6/28～6/30 (-22～-20)	7/8～7/10 (-12～-10)
こがねもち	7/4	7/27	1～3	7/9～7/12 (-18～-15)	7/17 (-10)

※穂肥時期下段（ ）は出穂前日数。コシヒカリと新之助、こがねもちは5月10日頃移植

その他品種は連休移植を想定し予想したものです。

- (1) 出穂期は、地域やほ場、田植え時期、生育期間の気象等により異なるとともに、今後の気象等により変動します。穂肥作業の「めやす」としてください。
- (2) 穂肥の施用に当たっては、必ず生育診断を行いましょう。
- (3) 前年のような高温気象が予想されているため、分施では3回目の穂肥、全量基肥では追肥の準備をしておきましょう。

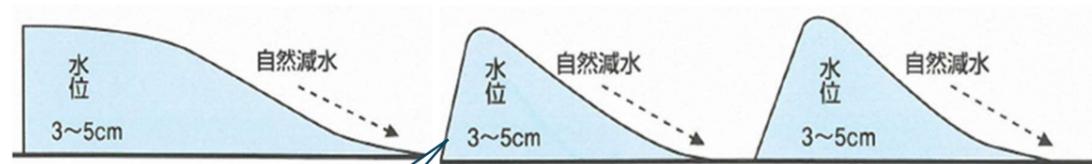
※ 穂肥に使用する肥料の種類や施肥体系による使用時期や施肥量に注意しましょう。(下表)

表4 肥料の種類及び施肥体系別穂肥施用のめやす(コシヒカリ)

施肥体系	肥料の種類	出穂前日数と施用時期					
		30日前	25日前	18~15日前	10日前	6日前	3日前
分施	化学肥料	-	-	1回目	2回目		3回目 ★葉色(SPAD値)31以下の場合のみN1.0kg
	有機質肥料						
	有機由来 N:50%	-	1回目	2回目			3回目 ★出穂期6日前の葉色(SPAD値)33以下の場合のみN1.0kg
	有機由来 N:100%	1回目		2回目			3回目 ★出穂期6日前の葉色(SPAD値)33以下の場合のみN1.0kg
全量基肥			追肥 ★出穂期の葉色(SPAD値)32~33以下と予想される場合のみN1.0kg				

4 中干し以降の水管理 ~間断灌水から飽水管理へ~

- (1) 中干し終了後は、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持のため、浅水の間断灌水を実施し、徐々に飽水管理へ移行しましょう。
- (2) 急激な湛水や高温時の長期間の湛水は根の酸素不足による根腐れや、下位葉の枯れ上りを生じさせるので注意しましょう。
- (3) 幼穂形成期以降は、ほ場を乾かさないうち注意しながら、飽水管理(水がなくなったらかん水を繰り返す方法)や湛水管理を行いましょう。
- (4) 異常高温、フエーン時は速やかに湛水し障害の発生防止に努めましょう。



中干し終了後は、間断かん水から徐々に飽水管理に移行し、うわ根の発生促進や根の健全化に努めましょう。

足跡に水がたまっている状態になったらかん水する。

中干しの強さは小ヒビが入る程度とし、出穂1か月前までを目安に終了しましょう。



切った溝のタテ溝とヨコ溝の連結、水口と水尻とのつながぎを確認しましょう。



5 カメムシ類による斑点米発生防止対策の徹底

(1) 畦畔・水田内のイネ科雑草(下図)に注意!

- 畦畔にイネ科雑草があると、斑点米カメムシ類が産卵し増殖してしまうので、イネ雑草が結実しない間隔で草刈りを行い、生息場所を減らしましょう。
- 水田内に出穂したホタルイ・ヒエは、カメムシ類の繁殖場所になるので、早めに除去しておきましょう。

(2) 本田防除

- 共同防除より出穂が10日以上早い極早生・早生品種は、共同防除前に個人防除を検討しましょう。
- 液剤や粒剤など剤型にあった適期に防除を行いましょう。
- 薬剤散布時には畦畔の雑草の草刈りを行っておくことで防除効果が高まります。

この雑草に注意!



ナギナタガヤ



スズメノカタビラ



スズメノテッポ



メシバ

6 農作物等の盗難被害に気を付けましょう

近年、全国的に農作物等の盗難被害が発生しており、県内では農作業小屋から米が盗まれる事案が報告されています。センサーカメラを設置する、収穫した農作物は倉庫にしまい施錠するなど、盗難被害を防止する対策を講じましょう。
また、農薬には毒物や劇物もあり、誤使用や汚染、いたずら等を招く危険性があります。盗難以外の食品安全、労働安全の面からも、適正な場所に施錠して保管するようにしましょう。

QRコード：農林水産省
「農作物の盗難防止対策を実施しましょう」



7 熱中症に気を付けましょう

人間の体は、暑い環境での運動や作業に慣れるまで数日から2週間程度かかります。
近年の寒暖差の激しい気候の影響により、熱中症で倒れる人が増えているため、気温が高い、湿度が高い、風が弱い、急に暑くなるような日は、特に熱中症を警戒しましょう。高温時の作業や単独作業は極力避け、こまめな休憩と水分補給を徹底しましょう。
また、環境省と気象庁が連携して運用している「熱中症予防情報サイト」では、危険な暑さが予測されると「熱中症警戒アラート」が発表されます。LINEやメールでの通知登録も可能なので、予防に役立てましょう。

QRコード：環境省
熱中症予防情報サイト

